

# SDGs 活動報告書

## 台湾の進んだエコ活動と SDGs への取り組み

人間科学部心理学科 3年 秋山柊人  
台湾・敏實科技大学

### 1. テーマ

今回私が選んだテーマは、「台湾の進んだエコ活動と SDGs への取り組み」です。このテーマは SDGs の 12「つくる責任 つかう責任」に関連しています。

### 2. このテーマにした理由

このテーマにした理由は、台湾の取り組みが茨城よりも進んでいて、参考にできることがあるだろうと考えたからです。現在、世界中で地球温暖化や廃棄物の増加など、深刻な環境破壊が問題となっている中で、私の留学する台湾では SDGs への取り組みが重要視されていて、その達成度は世界的に見ても高いです。その中で、エコやリサイクルに関する取り組みには具体的にどのようなものがあり、茨城と台湾でどのような違いがあるのかを調べようと思いました。

### 3. 現地での活動計画と実際の活動内容

- ～1 カ月：台湾の進んだ SDGs の取り組みについて現地で調査する（CircuWell、ゴミの分別）。
- ～2 カ月：台湾の進んだ SDGs の取り組みを体験する（現地の人々の意識、マイボトル）。
- ～3 カ月：現地の学生や先生方に実施するアンケートの内容を考える。
- ～4 カ月：アンケートを実施し、結果を分析する。
- ～5 カ月：茨城県の取り組みにどのように生かせるか考える。／まとめ

留学 1 か月目の 9 月は、主に留学先の大学や飲食店を中心に、台湾の環境配慮の実態を観察・調査しました。特に印象的だったのは、テイクアウト容器の多くがリサイクル可能な紙製であった点です。大学の食堂や街中の飲食店で持ち帰りを利用した際も、プラスチック容器は比較的少なく、環境への配慮が日常の選択として定着していることを感じました。また、ごみの分別方法にも大きな違いがありました。台湾では燃えるごみの中でも紙容器を分別する仕組みがあり、大学内のごみ箱も複数に分かれて設置されていました。このような細かな分別は、資源を有効に活用するための工夫であり、日本との大きな違いであると感じました。さらに、マイ箸やマイボトルといったエコグッズにも触れ、実際に購入し使用を始めました。

2 か月目には、台湾人学生 2 名に対して、環境保護や SDGs に関するインタビューを実施しました。学生たちは、マイグッズの使用や地域活動への参加など、日常生活の中でできる範囲のエコ活動を実践しており、「小さな行動の積み重ねが大切である」という意識を持った

ていました。一方で、知識はあっても行動に移せていない人が多いという現状も語られ、環境問題に対する意識と行動の間にはまだ課題があることを学びました。この時期から、私自身もマイ食器やマイボトルの使用頻度が増え、環境配慮が生活の一部となっていきました。

3か月目には、国際交流センターの先生や副学長の先生にインタビューを行い、教育機関としての環境への取り組みや、世代ごとの SDGs に対する認識についてお話を伺いました。大学では、節電の推進やごみ分別教育、留学生とともに行う環境体験活動などが積極的に行われており、教育を通じて持続可能性を広げていく姿勢が強く感じられました。また、環境問題は特定の世代だけの課題ではなく、社会全体で向き合うべき問題であるという考え方が共有されていることも印象的でした。

4か月目には、これまでのインタビューをもとにアンケートを作成し、大学の学生や教員を対象に調査を実施しました。多言語でアンケートを作成したことで、台湾人だけでなくベトナムやインドネシアの留学生の意見も集めることができ、SDGs やエコに対する意識の広がりを感じることができました。この活動を通して、台湾ではエコ活動が個人の努力だけでなく、制度や環境によって支えられていることを実感しました。

5か月目には、これまでの活動を振り返り、台湾でのエコの取り組みを日本にどのように生かせるかを考察しました。特に、ごみ分別の仕組みや紙容器の活用は、茨城県でも導入の余地があると感じました。台湾での生活を通して身についたマイボトルやマイ食器の使用といった習慣は、帰国後も継続していきたいと考えています。

#### 4. まとめ

この5か月間の留学を通して、SDGs や環境問題は決して特別なものではなく、日常生活の中の小さな行動から実践できるものであると強く実感しました。台湾での経験は、私自身の意識と行動を大きく変えるきっかけとなり、今後も環境に配慮した選択を続けていきたいと考えています。